

「IC で学んで」(平成 2 5 年度)

3 年 ICA 組 女子

この学校に入学し、「国際文化コース」で過ごした三年間は、貴重な経験を数多くできた日々でした。こんなにも一瞬に過ぎてしまったと思うのは、この三年間が私にとって、とても充実していた証拠でしょう。

入学してすぐ、皆と行ったスプリングキャンプは、A クラス、B クラス関係なく、それぞれがお互いに交流できた三日間でした。

それからの日々は、毎日が新鮮なものでした。ネイティブの先生による朝の SHR、すべて英語で進められる LA の授業。得意だったはずの英語が、まだまだ不十分だったと改めて痛感させられました。けれども、この三年間、英語力をのばすことのできる経験をたくさんしました。まず、ニュージーランド研修。私にとってこの留学は、初めての海外でした。日本を離れ、ホストファミリーと過ごし、学校では周りの流れるような英会話についていくのに必死で、また言いたいことが英語に直せず、愚痴や不安をこぼしてしまうことも多々ありました。今思うと、もっとホストと会話がしたかったという後悔と、怖がっていた自分に恥ずかしさを感じています。正直私は、留学だけで英語力が身につくと思っていました。けれども、実際本物の英語に接すると、「間違っていたらどうしよう」とおびえ続けていました。帰国後に私が思ったのは、どんなに思っても言葉にしなくては伝わらないということです。間違いや失敗を恐れず、下手でも下手なりに相手に伝えることの大切さを学んだ六週間でした。

そして模擬国連。英語力だけでなく、自分の意見をまとめて述べること、国際的な問題に取り組むことも学びました。私は、議長を務めさせてもらいました。最初は嬉しさや驚きと同時に、私で務まるのかなど不安も感じました。大勢の人数をまとめ、状況を把握すること、平等に指名することはとても難しかったです。けれども、そんな時に励まし支えてくれたのは、一緒に頑張ってきた友達でした。そのおかげで、私は諦めずやり遂げることができました。ページで、他校の人達から「頑張れ」「三日間ありがとう！」など送られてきたことは、今でも忘れられません。人と接することの楽しさもこの模擬国連で学びました。

この「国際文化コース」は、私にとって、きっと他のどこの学校よりも学ぶことが多かったコースだと思います。「英語を学ぶ」ではなく、「英語を身につける」ということの意味をやっと理解できました。英語だけでなく、茶道や座禅を通して、日本の伝統文化も学ぶことができて、本当に良かったと思います。これから私達は、大学、社会と想像もできないほど多くの可能性があふれる状況の中で生きていきます。うまくいくこともあれば、失敗することも沢山あるでしょう。しかし、この IC コースで積み重ねた経験のように、人には見えない小さな努力もいつか大きな力になると私は信じています。

3年 ICB 組 男子

私が IC コースに入学した頃、世の中は「これからは英語教育が大切だ」と騒いでいました。今の企業は社員に TOEIC のスコアを求めるなど、国際的な活躍ができる力を社会は必要としています。この三年間、私が IC コースで学んだことはとても多く、これからの糧となるものでした。

「国際」の「際」とは、物と物との境目を意味します。国と国との境目に立ち、他国と関わりをもつ——そのためにはまず自分の国、日本について多くを知らなければなりません。

私達は IC スピリットのもと、多くのことに取り組んできました。最初の大きな目標はニュージーランドへの短期留学でした。十六歳にして私は初めて海外へ行くことになりました。高校一年生の私の英語では、簡単なことしか話すことができませんでした。周りから聞こえてくるのは英語のみ、聞き取る力もなく、早口で何を言っているのだろうと感ずるほどでした。数週間だけでしたが、日本以外の国で生活し、学校へ通い、日本との違いを目の当たりにしました。そのひとつに、私の通っていた現地の学校の制服を着た生徒が、車を運転して学校へ来ていたことが挙げられます。ニュージーランドでは十五歳から運転免許を取得できます。この年齢は世界で最も低いと言われています。文化の違いを痛感した瞬間でした。ニュージーランドでの経験は、日本での生活しか知らなかった自分の価値観を一変させるものでした。

留学を経験したことで、日本しか知らなかった私の中に、ニュージーランドという日本と比較できる国ができました。この経験がなければ、IC コースの集大成とも言える関西模擬国連大会の成功はなかったと思います。

” Water for Life ” を議題に、マレーシア代表として模擬国連に参加しました。準備期間では、マレーシアについての水の問題以外に歴史や情勢、対外関係などを調べることでマレーシアという国の立場になれるよう努めました。その国の立場になることで、初めて国際的な視点からものを考えることができました。会議は私利私欲を発言する場ではありませんが、時には積極的になることもあります。世界基準で物事を考え、解決を導く——これが会議においては大切です。模擬国連大会で、国際的な視点から初めて物事を考えられたように思えます。

「国際人」という言葉をよく耳にするようになりました。国際人とは、世界基準で物事を考え、行動できる人のことです。もちろん、世界の共通語と言われている英語を使いこなすことができなければ、世界基準などには到底手は届きません。そして、ただ単に海外へ目を向けるだけでも足りません。自分のいる日本という国をよく知り、そこから海外へ視野を広げるべきだと思います。IC の活動にはこの三年間、常に英語がある環境でした。日本文化を学び、海外留学生との交流などもありました。IC コースで、国際的な視点から物事を考えることを学ぶことができたと思います。